

【コンクリート構造物の施工】

Q：スリップフォーム工法での養生方法は？

A： SF工法では、打設したコンクリートがまだ硬化しない状態で自立するので表面のみが急激に乾燥して、ひびわれ発生の原因につながる可能性があります。そこで打設後、被膜養生剤を散布する方法を標準とします。(協会機関誌第10号)

Q：スリップフォーム工法用の型枠(モールド)にはどのようなものがありますか？

A： スリップフォーム工法により構造物を構築する場合、構造物の形状寸法にあった鋼製型枠(以下モールドと略記)が必要となります。構造物用のモールドの種類としては、コンクリート製防護柵、円形水路、ロードガッター、監視員通路直壁、U型側溝、縁石等があり、それぞれ規格に応じた形状寸法のモールドが用意されています。なお、特殊な形状寸法の場合は、別途モールドを製作することで対応できます。(協会機関誌第12号)

Q：スリップフォーム工法で剛性防護柵を施工する場合、どの程度の高さまで施工できるのですか？

A： 現在までの施工実績では、防護柵で1.5m程度の高さまで施工した経験があります。ただし、施工にあたっては、鉄筋の固定をより堅固に行い、必要に応じて補強筋を増すなどの対策をとる必要があります。また、構造物の高さが高くなると、コンクリートがダレ易く、はらみ易くなるので、特に、コンクリートの品質管理を十分に行い、自立性の確保に留意する必要があります。(協会機関誌第13号)

Q：基礎無し円形水路の鉄筋をどのようにして所定の位置におさめるのですか？

A： モールドの中に入った鉄筋はモールド前部にあるガイドとモールド後部で締固められたコンクリートに支えられて正規の位置を保つようにしています。(協会機関誌第17号)

Q：円形水路の呑み口はどうして施工直後でも一定の形状に保つことができるのですか？

A： 円形水路打設直後に、水抜き寸法となるべき大きさの呑み口形状(木製または発砲スチロール製)を差し込み、一定に保つからです。(協会機関誌第17号)

Q：円形水路の断面を見たとき、どうして型枠施工の断面と比べて底版の厚みで20mm大きいのですか？

A： 一般には基礎無しのため、掘削・底付にある程度の施工誤差が生じます。そのため、底部の+20mmは、設計においてこの施工誤差を考慮し、円形水路の設計位置の調整を容易にすることを目的としています。(協会機関誌第17号)